

れんごう中越地協

第1043号2020.7.11
連合中越地域協議会
長岡市愛宕3-7-24
TEL 0258-86-0111
FAX 0258-86-0884
発行人 矢島 良彦
定価 1部10円
購読料は会費に含む



連合中越第90地協委員会開く

2月以降の報告と活動予定審議

連合中越地協第90地協委員会が、6月23日(火)午後6時30分からアトリウム長岡で開かれた。本代議員(電力総連)を選出し、感染防止のため代議員数を通常より減じ、間隔を取った配席で行われた。開催にあたり矢島議長は、「4カ月間企業活動、労働運動がストップの状態。予想しえなかった。この間、春季生活では組合員のためにどのように活動



したのか。組合員はどのように思っているのか。新たな生活様式の中で、顔の見える活動をどのように実現していくのか課題だ。」「感染症禍で、社会が変わると同時に労組がどのように変わっていくのか。リモートでもフェイス・to・フェイス、コミュニケーション策も遅れることなく対応していく必要がある。」「先の見えない不安に對して、今できることを明確にしていく」と述べた。

20年度総会で報告と事業計画を決定す

長岡地区労働者福祉協議会

長岡地区労働者福祉協議会(矢島良彦会長)は、6月23日(火)午後2時から通常総会を連合中越地協事務所で開催した。例年、長岡市をはじめ関係のある団体を来賓として招いているが、今年は感染症禍にあることから、間新潟県労働者福祉協議会専務理事1人だった。横澤幹事が総合司会

「先の見えない不安に對して、今できることを明確にしていく」と述べた。続いて報告事項が扱われ、2月4日以降の報告として主要日程が報告されたほか、春季生活闘争に關連した連合新潟会長・事務局長の激励訪問、民間・医療・公務部門連絡会、2020年がわかワイク&ライブセミナー開

を務め、豊田副会長(こくみん共済coop)が開会あいさつと述べた。次に矢島会長が「2020年がわかワイク&ライブセミナーは、分散型講座とメインセミナーをNPO・市民団体の協力により開催した。感染症により生活弱者がクローズアップされている。手をさしのべるとともに、状況



首都圏への移動制限解除がなされたある日、上部団体の会議に出席の約4ヶ月振り新幹線を利用し東京へ行ってきました。如何程に混雑しているのかと思いきや、車両の中は10人に満たない人数で社会的距離が保てておりました。緊急事態宣言下のスカスカ状態は承知していましたが、解除後の日常としての光景とは思いません。アフリターコロナの経済社会活動の復活は程遠いことを痛感しました。(当然、首都圏への異動に自粛されている企業・団体があるという事も承知しております)▼一方、企業によってはテレワーク、オンラインなどの遠隔業務にシフトし、不要不急な外出をしない工夫をして

バンク事業等について触れられた。次に19年度の事業報告と決算報告を小林事務局長が行い、監査報告を石田会計監査とトセンターについて、年間相談331件(累計相談数5000件超)、チラシ配布数59110枚。相談傾向は家庭問題やこころの問題が多く、例年と変わりがなかった等と報告した。次に20年度事業計画が提案され、2021年がわかワイク&ライブセミナーを開催に向けて検討すること、ライブサポート事業

は、19年度同様に進めていくこと等を決定した。後段では、会員団体のNPO法人女のスペース・ながわかワイクPO法人地域循環ネットワーク等から報告を受けて終了した。

連合中越地協S J ネット委員会 第4回委員会
日時 7月15日(水)18:30~
場所 地協事務所
議題 今後の取り組みについて 農園事業について

東蔵王2 議長 矢島良彦
いるところが増えていきます。弊労組もズームアプリを利用し、執行委員会や役員間の情報交換を行って、ある意味コミュニケーションや参加率が高まっています。新幹線や車での移動が、如何に時間の無駄な行動をしていたのか、コロナ禍の中で気付きも生まれています▼これにより新しい生活様式がどんどん育まれ、地方の人口流出がストップできればしたものです。産業企業の特長でリモートワークができないところもあり、一様な形式は無理としても、地方にベンチャー企業が育ち活発化する大いなるチャンスでもあります。新型コロナウイルスを契機に若者の県外流出の歯止めがかかる、そんな時代の到来を期待したいです。

サラリーマン川柳(今日もまた 給料分を 怒られた) (ウオーキング 減っているのは 靴の底) (会議増え 会議を減らす 会議する) (妻が見る「きょうの料理」明日もです)

